

■招詞 申命記 32:1-2 「天よ、耳を傾けよ、わたしは語ろう。地よ、聞け、わたしの語る言葉を。わたしの教えは雨のように降り注ぎ／わたしの言葉は露のように滴る。」

■礼拝の祈り

天におられるわたしたちの父なる神よ、
＜礼拝の招きへの感謝＞

あなたはわたしたちを選び、わたしたちにあなたの恵みを様々なかたちでふさわしい時にあたえてくださいます。なによりも、あなたはこうしてこの礼拝を備えて、恵みとしてわたしたちを招いてくださいました。どうかあなたの招きの声を確かに聴きながら、それにお応えする礼拝をささげることができるよう、この時、この場所を聖霊で満たしてください。

この会堂で、集まりました仲間と挨拶をかわし、安否を問いました。ともに祈り、ともに礼拝する信仰の仲間が与えられていることを感謝します。それだけに、今日は顔をみるができない者のことをも思います。それぞれの場所で祈りをささげている者のことでもあります。けれども、今日、ともに集うことができなくとも、すべての者があなたの恵みにとらえられていることをもう一度確かにおもわされ、感謝いたします。

＜神の御前での罪の告白と悔い改め＞

しかし、こうしてあなたのみ前に恵みによって立たされているからこそ、自分の罪の深さを思い起こさないわけにはいきません。先週の主の日に御言葉をいただいて歩みだしたにもかかわらず、この一週間を本当に感謝をもって歩むことができたのか。み言葉をいただいた夜に、朝目覚めてすぐに、心に眩きがおこり、あなたに対する信頼よりも、自分に目を向けて誇り、また人の中に罪を見出そうとしてしまいます。

あなたがわたしたちの心に、愛の戒めを刻んでくださったはずなのに、自分では愛を行わず、人にばかり求めていました。あなたが与えてくださっている信仰と希望と愛、この霊の賜物を生かすことなく、見えなくしてしまい、自分自身を不幸せにしていることに気づかない者です。どうか、あなたの恵みのご支配の中に生かされていることに気づかないこと、あなたからの賜物こそ生かし、用いるべきであること、それがわたしたちのただ一つの幸いな生活、生き方であることをもう一度思い起こさせてください。

＜御言葉が語られ、聞かれるため、聖霊の働きを求めて＞

このような私どもを、あなたは御許に招いてくださいます。どうか、今、主の食卓に与るのにふさわしい悔い改めの心をあたえてください。そのために、自分の罪がどれほど深いものであるかを知り、だからこそあなたにどれほど赦されるかを知らせてください。罪による滅びから救い出し、永遠の命を与えてくださったあなたの恵みがどれほど豊かであり、そこにこそ本当の命があることをあらためて受け止めさせてください。主の赦しを自分のすべてで受け止め、信じる心、あなたへの信頼をあたえてください。そのために、今日もこの礼拝において、生きておられる神、主が働いてくださいます様に。み言葉をわたしたちに豊かにそそいでください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

■教会の祈り

<礼拝感謝>

<聖餐感謝>

今日は主の食卓にあずかることができました。あなたが主イエスを遣わしてくださり、主はご自分をわたしたちのためにささげてくださいました。この大いなる恵みを新たに、たしかにさせられました。感謝いたします。主イエスの体と血をいただき、新しく主とひとつとされたものとして、よろこびのうちにこの週を歩みだします。

<困難の中にある人を救ってください>

心や体の病気、悩み、不安の中にいる者をどうかたすけてください。医療も介護もあります。家族の助けもあります。けれども、あなたの御言葉こそが必要なのです。主がともにいてくださる。まことの救いをお与えください。

そのような者たちを覚えて祈るわたしたち一人ひとりが御言葉を携えてかたわらに寄り添うことができるように用いてください。

<一週間の歩みを祈りの中においてください>

新しい一週間を歩み始めます。主がいてくださらなければおぼつかない足取りです。どうか私達の歩みを祈りの中においてください。

私たちの主、イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン。